

夢や目標明確に

新宮市立城南中学校で26日、立志式があった。1年生と2年生、106人が参加。それぞれの学年の代表者が登壇し、夢や目標を書いた作文を朗読した。

立志式とは、数え年で15歳となったことを祝う、江戸時代の成人式にあたる元服にちなんだ行事。主に中学校で行われ、将来の夢や目標、決意を発表する。城南中でも毎年、1年生を対象に実施している。ただし昨年はコロナ禍の影響で実施できなかったため、今回は1年生と2年生が合同で行うこととなった。

城南中で立志式 代表者が作文朗読

返しのためにも、動物セラピーのセラピストになりたいとの夢を表明。そのために高校では勉強を頑張る、専門学校に進み、資格をとりたい」と語った。「最初は母に受けてもらい、病院や介護施設でも元気にしたい。困っている人を助けられる人になりたい」と力を込めた。

2年生は、竹田風沙さんが代表となった。城南中の生活で、人としての面で多くを学んだと説明。「感謝の気持ちを保持」「まわりを見て行動する」「当たり前のことを当たり前に」の3つが大切と考えたと話した。「3つを大切に行動したい。大人になる準備をしていきたい」とまとめた。

生徒の発表に先立ち、



将来について考えた

新宮信用金庫熊野支店の田中茂樹支店長代理による講話があった。小5で卓球を始め、目標とした人物に中2で初めて勝ち、高校では全国大会出場を目標に掲げ、高3で達成したことを紹介。「目標を持つことは大切。達成できなくても、努力したことは大きな糧となる」と伝えた。「信念を持ち、自分を信じて努力

する意義はある。必ず夢は実現できる」と激励した。

中田善夫校長も、「後悔には、何もしないことでの後悔と、失敗しての後悔がある。何もしないより、失敗しての後悔を。挑戦をすすめたい。夢や願いは変えてもいい。大事なのは挑戦すること」と呼び掛けた。

(瀬戸正善)